

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

2024年 10月 9日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 藤 洋作 様

所属部局: 農学研究科

職 名: 教授

氏 名: 伊福 健太郎

助成の種類	令和6年度・国際会議開催助成		
国際会議名	第2回 アジア・オセアニア国際光合成会議		
開催期間	2024年 9月 18日 ~ 2024年 9月 21日		
開催場所	神戸ファッションマート		
参加者	総数 303名	内訳 国内 177名 海外 126名	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(プログラム)		
会計報告	事業に要した経費総額	17,728,771 円	
	うち当財団からの助成額	900,000 円	
	その他の資金の出所	学会参加費、企業広告費、ポートピア81記念基金、鹿島財団、中西力コンベンション振興財団、日本学術振興会(学術変革領域)、日本植物生理学会	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費目	金額(円)	財団助成充当額(円)
	会場費(付帯設備含む)	4,336,505	0
	会場設営(無線LAN、音響機器など)	3,381,708	900,000
	ポスター、立て看板、受賞関係など	608,859	0
	HP運営、会計手続き業務(外注)	2,364,330	0
アルバイト代(4日間、延43名)	404,500	0	
プログラム印刷、事務経費	470,310	0	
食事、懇親会、招聘費用など	6,162,559	0	
合計	17,728,771	900,000	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 会場の関係で神戸での開催となったにもかかわらず、本国際学会の開催を支援して頂き、誠にありがとうございました。光合成研究はまだ基礎研究であるゆえに、その活動を助成してくれる財団は限られており、大変助かりました。京都大学からも多数の教員・学生の参加があり、当該研究分野におけるプレゼンスを国際的にアピールできたと考えております。引き続き、大学が担うべき基礎研究分野へのご支援をよろしくお願いいたします。		

成果の概要 / 伊福健太郎

2024年9月18日から21日、神戸ファッションマートを会場として、第2回 アジア・オセアニア国際光合成会議を開催した。会議の会長として岡山大学の沈 建仁教授、庶務として京都大学理学研究科の鹿内利治教授、総務として私、京都大学農学研究科の伊福が企画と運営を行った。

本会議では、光合成について、8演題のプレナリー講演、12セッションのシンポジウム及びポスターセッションを通して、研究成果の発表と活発な議論を行った。そして大学生やポスドクなどの若手の発表者の中から、3題の口頭発表賞と7題のポスター発表賞が選ばれて表彰された。京都大学からは、1名の口頭発表賞と2名のポスター発表賞が選ばれ、光合成研究分野における本学の高いプレゼンスを示せたと考えている。本会議の中では、若手研究者によるシンポジウムも企画され、また、本会議の終了後、国内外の若手研究者による合宿形式の会を開催するなど、若手の育成を目的とした活発な研究交流を図った。中国などの光合成研究の著しい進展により、以前では考えられないような高いレベルの会議を開催することができ、多くの参加者から、大変有意義な会であったという評価を受けた。特に欧米の7カ国からの参加者があったことは特筆に値する。アジア・オセアニアの質の高い研究に関心が持たれていることの証であろう。



本会議の第1回の会議は2018年に北京で開かれたが、当時は中国と日本の参加者が中心の印象であった。その後、コロナウイルス感染拡大の影響で中断されていたが、今年になってようやく第2回を開催できた。光合成研究の基礎研究分野には、残念ながら、韓国、台湾にあまり多くの研究者がいないが、今回の会議で、オーストラリアやインドを含むアジア・オセアニアでも質の高い光合成会議が開催できることが証明されたと思う。第3回の会議は、オーストラリアで開催されることになったが、引き続き、全世界から注目されるような高いレベルの国際会議が開催されると期待される。アジア・オセアニアが世界に対する情報の発信源となることの意義は大きく、その中で日本の役割を十分にアピールできた会議となった。

本会議には、19カ国の諸外国からの参加者があり、国別リストを眺めると、普段の日本で開催される国際会議では、馴染みの薄い国からの参加者もあった。アジア・オセアニアの会議ということで、今回初めて日本を訪問した方も多かったと思う。彼らにとって、今回の日本、神戸の滞在が印象に残るものであり、再び、日本を訪れてくれることを期待する。

最後に、本会議を開催するにあたって、ご支援頂いた京都大学教育研究振興財団に深く感謝を申し上げます。

文責 京都大学大学院農学研究科 伊福健太郎

